



新発売

プライオリティ®

豆つぶ®250



ノビエ



ホタルイ



オモダカ

除草効果優先、使いやすさ優先。

- 新規成分エフィーダ® (一般名フェンキノトリオン) 配合
- ノビエに卓効
- 移植当日～ノビエ3.5葉期まで幅広く使用可能
- 2成分で幅広い雑草を防除



※商品画像はイメージです。
®はクミアイ化学工業(株)の登録商標



エフィーダ® 配合
問題雑草に広く効く!!

特長

- 新規成分エフィダ®(一般名フェンキノトリオン)を配合した2成分の混合剤です。
- 雑草発生前～ノビエ3.5葉期まで卓効を示します。
- コナギやミズアオイ、オモダカ、ホタルイ、コウキヤガラなどの雑草に対して高い効果を示します。
- 水稲安全性が高く、移植直後から使用できます。また、表面播種を含む直播栽培に使用できます。
- 既存の4-HPPD阻害剤に感受性の高い飼料稲栽培時にも使用することが可能です*。

*既存の4-HPPD阻害剤に感受性が高いとされる、やまだわら、とよめき、タカナリ、モミロマン、ミスホチカラ、ノバタキ、おどろきもち、ふくおこし、えみだわら、もみゆたかに対し、エフィダは高い安全性を示すことを確認しています。WCSIに関しては別途、稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアルを確認の上、ご利用願います。

- 10アール当たり250gと軽量で、拡散性に優れた豆つぶ製剤です。

適用雑草及び使用方法

2020年9月現在の登録内容

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生及び多年生雑草	移植直後～ノビエ3.5葉期 但し、移植後30日まで	250g	1回※	湛水散布、湛水周縁散布 水口施用又は 無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	稲出芽前期～ノビエ3.5葉期 但し、収穫90日前まで			湛水散布又は 無人航空機による散布

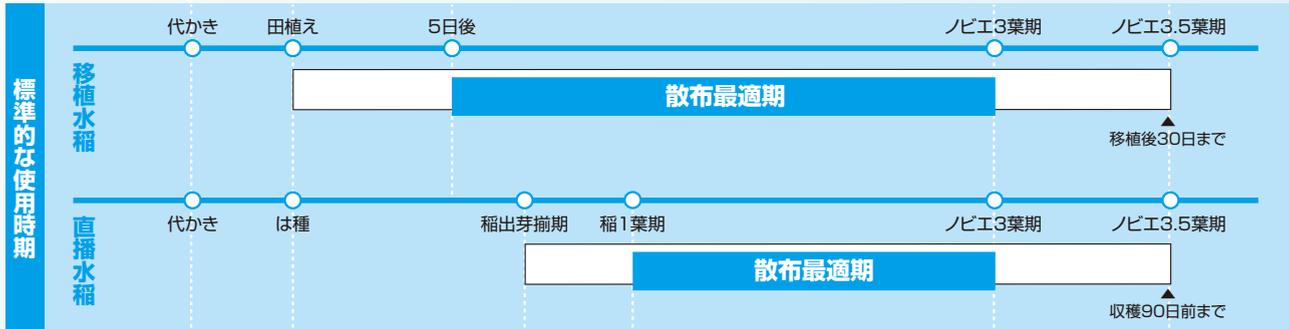
※各有効成分を含む農薬の総使用回数：トリアフェモン2回以内、フェンキノトリオン2回以内

**新規有効成分
フェンキノトリオン(エフィダ®)
について**

フェンキノトリオンは水稲安全性に優れた広葉、ホタルイ防除剤で、雑草に対しては白化症状を示す4-HPPD阻害剤です。田植同時処理や鉄コーティングを含む直播栽培、飼料用稲品種等*に対しても高い安全性が確認されており、水稲作の幅広い場面で使用が想定されています。



上手な使い方



▲使用上の注意

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3.5葉期までに、時期を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが異なるので、必ず適期に散布してください。エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ウリカワ、キシウスズメノヒエは3葉期まで、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは4葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期です。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないため、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
- 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業は怠りないでおこなってください。未熟有機物を施用した場合は、特に怠りないでおこなってください。
- 湛水散布または湛水周縁散布にあたっては散布の際は、やや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めてください。
- 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かにおこなってください。
- 水口施用の場合は、あらかじめ1～2cm程度水深を確保した状態で、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態(水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意してください。散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 薬液・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため周縁散布または水口施用を避け、本田内で水田全面に散布してください。
- 水口に対して風速5m/sを超える向かい風が吹いている場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため水口施用をさけてください。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
 - 砂質土壌の水田および漏水田(減水深が2cm/日以上)
 - 軟弱苗を移植した水田
 - 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
 - 種穴の戻りの悪い水田
- 直播水稲に使用する場合は、以下の点に注意してください。
 - 発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の出芽前期以降に散布してください。
 - 稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
 - 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布してください。
 - 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけてください。
 - 本剤は吸湿性があるので、散布時に降雨の場合には濡れないように注意して散布してください。濡れた手で扱わないでください。また、開封後は早めに使用してください。
 - 無人航空機で散布する際は以下に注意してください。
 - 散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
 - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
 - 事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置の開度を調整してください。
 - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上

- 離して圃場内に散布してください。
- 水源池、飲料用水などに飛散、流入しないように十分注意してください。
- 散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないでください。
- 薬害のおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎおよびさやえんどうを栽培しないで行ってください。
- 本剤はその殺草特性から、いくさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用してください。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

▲安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は保護眼鏡、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

本資料は2020年9月現在の知見に基づき作成しています。 1892(20-10)